白山台小

主体的に表現する児童の育成

～問いの意識をつなげる授業づくり（算数科）～（３年計画の２年次）

校長　　種市　八重子

１　研究主題について

本校では、教育目標に「めあてに向かってともに学び合う子」を掲げ、校歌に謳われた「学ぶたのしさを分かちあう学校」「心とからだを鍛えあう学校」の実現を目指している。教育は人づくりという視点に立ち、すべての子どもに主体的に学ぶ態度を身に付けさせ、確かな学力を保証することを目指している。昨年度は、これまで実践してきたユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりをもとに、昨年度は、音楽科を通して表現力を高めるための指導の研究を進めてきた。「音楽を形づくっている要素」を意識した基礎・基本の確実な習得や、問題解決的な学習の充実を意識して授業づくりを進めてきた結果、児童が主体的に生き生きと学ぶ場面が見られるようになった。また、見通しをもたせてから学習を進めることや教材の焦点化や共有化を図ることで、児童の学びが深まり表現力を高めることができた。しかし、教師と児童による一方向の対話の場面が多く、児童相互が双方向に対話する「学び合い」の場面があまり見られなかった。また、児童がより主体的に取り組むための「問い」を意識した学習課題の設定や発問の工夫についての課題も残された。

そこで、今年度は、算数科を通して、児童の「問いの意識」を大切にした課題設定や、発問などの工夫により主体的に学習に取り組めるようにする。また、児童が互いの考えを共有し合う「学び合い」の場では、自分の考えを表現し合うことができるように学習形態や対話のさせ方を工夫したい。

今年度の学校目標は、「ともに学び合う児童の育成」である。子どもたち一人一人が学ぶ意義やよさを実感しながら、友達と協動的な学習に取り組むことで、思いや願いを主体的に表現することができ学ぶ力を高めていくと考え、本主題及び副題を設定した。

２　研究のねらい

児童が主体的に学び合い、表現し合うための効果的な指導の在り方を、算数科の授業実践を通して明らかにしていく。

３　研究仮説

学習課題の設定や仕方、表現の場を工夫することによって、「問いの意識」をもち、主体的に学び表現する児童を育てることができる。

４　研究内容

(1) 問いをもたせる働きかけの工夫

ア　解決の必要感や切実感のある課題設定

イ　「問いの意識」をもたせる発問の仕方や教材提示の工夫

(2) 「学び合い」を意識した場の工夫

ア　学習形態や対話のさせ方の工夫

イ　資料提示、ＩＣＴの活用、ノート・ワークシートの工夫等

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	6		全体会（共通理解）
4	２１		全体会（指導案作成様式）
7	5	第１回授業研究（要請訪問） ２年２組　授業者　教諭　埒見　駿介	公開授業
9	5	第２回授業研究（要請訪問） ６年３組　授業者　教諭　榊　綾子	公開授業
１１	１１	第３回授業研究（要請訪問） ３年２組　授業者　教諭　野澤　比奈乃	公開授業
１１	３０		全体会（今年度の成果と課題）
1	１２		全体会（来年度の方向性①）
2	8		全体会（来年度の方向性②）

(2) 一般研修

月	日	一般研修等
4	１３	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について」 講師：八戸市教育委員会教育指導課　　日向端　聖　副参事　兼　主任指導主事
6	8	児童理解の視点について① 講師：八戸学院大学短期大学部　　野口　和也　教授
8	３１	県学習状況調査の採点・分析・考察
１０	１２	１人１台端末の実践的な活用例 講師：八戸市総合教育センター　　石井　一二三　主任指導主事
１１	３０	クロームブック活用講習会 講師：白山台小学校　田中　裕美　小向　一樹　工藤　佳
1	１８	児童理解の視点について② 講師：八戸学院大学短期大学部　　野口　和也　教授
2	１５	研修報告会

６　研究の成果

(1) 「問いの意識」をもたせるために、導入のはたらきかけを工夫したり、あえて児童を困らせる課題設定をしたりすることによって、児童の課題解決の意欲や表現したいという気持ちを高めることができた。

(2) ペア・グループに留まらずに自由に交流する形態の工夫や、ＩＣＴを活用した場の工夫をすることによって、一人で考えるよさと「学び合い」で話し合うよさを感じ取らせることや、「学び合い」による学習の広がりを感じることができた。

７　研究の課題

(1) 「問いが連続する」授業づくり

(2) 相手を意識した「学び合い」の場や表現の仕方の工夫（話し方・示し方）

(3) ＩＣＴを活用した「学び合い」の方法やそのよさを感じられる授業づくり

（記入者　工藤　佳）